

「シモン・ペトロ」

2021年11月20日

三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、私を愛しているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「私を愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存知です。私があなを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「私の羊を飼いなさい。よくよく言うておく。あなたは、若い時は、自分で帯を締めて、行きたい所へ行っていた。しかし、年を取ると、両手を広げ、他の人に帯を締められ、行きたくない所へ連れて行かれる。」(ヨハネ福音書 21 章 17 節～18 節)

ガリラヤ湖の漁師であったペトロは、主イエスから「私に付いて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と召し出された時、主イエスの招きの言葉に力があつたこともあるが、ガリラヤ人気質を受け継ぎ、決断力があり、即座に網を捨てて従つた。主イエスに従う中で、主イエスの言葉と業に心酔し、弟子であることを何よりの誇りとした。主イエスがフィリポ・カイザリアで、「あなたがたは私を何者だと言うのか」と問われた時、ペトロは真つ先に「あなたはメシアです」と告白している。このペトロの告白は、十字架で死んで罪を赦すキリストを理解していたのではないが、主イエスを心底信頼し、愛しての告白であつた。

ヨハネ福音書は、ペトロの興味深い人柄を伝えている。最後の晩餐を行う前、主イエスは弟子たちの足を洗われた。奴隷のする足を洗う行為を師がするのを見て、弟子たちはあつけに取られ、言葉を失つた。ペトロの番になつた時、畏れ多いと「私の足など、決して洗わないでください」と固辞した。足を洗わないなら、私と何の関りもなくなると言われると、慌てて「主よ、足だけでなく、手も頭も」と、吹き出しそうな返答をしている。主イエスとの関りがペトロの命であつた。最後の晩餐を終え、オリーブ山を歩いている時、主イエスは弟子たちの離反を予告された。ペトロは怒りを込め、「たとえ、ご一緒に死なねばならなくなつても、あなたを知らないなどとは申しません」と、信従の決意を表明した。ところが、その数時間後、イスカリオテのユダに先導されたエルサレム神殿の衛兵に捕らわれた時、ペトロは主イエスを置き去りにして逃げ去つた。しかし、気になって、連行された大祭司の中庭に隠れて侵入した。火にあつていたペトロは顔を見られ、主イエスの仲間であると名指しされた時、三度も知らないと言い張つた。あれほど信従を表明しながら、自身に危険が及ぶのを恐れ、イエスとの関りを拒絶した。彼は、外に出て泣き崩れた。

しかし、ペトロは挫折しながらも、ユダのように、主イエスとの関りを切ることができなかった。主イエスは復活して、死を突き抜ける神であることを弟子たちに示された。彼らは赦されていることを知り、喜びに満ちた。

ヨハネ福音書は、その喜びの出来事を下記のように伝えている。復活した主イエスはペトロに「私を愛しているか」と三度も問われた。三度も主イエスを「知らない」と拒んだことを思い起こし、悲しんだが、「主よ、あなたは何もかもご存知です。私があなを愛していることを、あなたはよく知っておられます」と答えている。私の愛はあなたがご存知ですと、主客が転倒している。主イエスは「私の羊を飼いなさい」と命じられた。彼はエルサレム教会を守り、育てる使徒として用いられた。ペトロは自分の意思で動くのではなく、神の意志に導かれる使徒に変えられた。復活信仰は、神が主で、私は従であることの承認である。ペトロは二度も挫折したが、主イエスの福音を生き、証しする生涯を送つた。